

○2番（帰山寿憲君） 2番、帰山です。

では、4項目につきまして伺いたいと思います。

最初に、来年度以降の事業等について伺います。

来年度にはスローライフサミット、平成24年度には環境自治体会議等の全国大会が予定されています。一方、教育関係や民間でも大型の大会が予定されているようです。環境自治体会議につきましては前に伺っていますが、勝山市が主催する行事においての勝山市のアピールポイントや、その目標、期待する効果はどのようなものがあるのでしょうか。これらに対する今後の予算計画を伺います。

さらに、これらの大会に向けて勝山市として具体的にはどのような行動を計画しているのか、具体的な計画があるのかを伺います。

また、平成24年には平泉寺のガイダンス施設がオープン予定ですが、環境自治体会議の開催までに完成が間に合うか伺います。勝山市の誇れる文化財の紹介施設でもあり、間に合わせるべきだと考えております。

次に、勝山市の道路網の整備計画について伺います。

車で勝山市へ入るための一般道は、福井方面からは国道416号線、丸岡方面からは鮎街道経由、石川方面からは国道157号線、大野方面からも国道157号線であり、そのほかに高速道路を利用すると勝山インターチェンジ経由となります。

現在、大野勝山間は4車線化の工事中であり、完成は来年度と聞いています。しかし、その先の高架、橋梁、トンネルにつながるめどはないようです。また、勝山インターチェンジのアクセス道路は開通の予定がないように思います。国道416号に関しても急速な進展は望めないようです。さらに福井丸岡方面ではバイパス線の工事や拡張工事が進まない状況であり、国道157号線石川方面は県内側の整備はほぼ完了しているものの、アクセス道の価値としてはやや落ちます。つまるところ勝山市へのアクセス道に満足できるものはなく、ボトルネックと言えます。この改善手段はあるのでしょうか。

最近では市道も含め舗装状況も著しく悪化しており、イメージ的に悪いものがあります。照明などの整備が行き届いていないという点も含めて、治安上もよくないかもしれません。国の方針なのか、県の方針なのか、予算がないのか、どうなのでしょう。

また、道路状況が悪ければ帰宅に時間を心配して観光客の帰宅時間が早くなり、客単価も小さくなるのが考えられます。観光施策としてはどのようなお考えでしょうか。その点では道の駅の整備が必要であると考えますが、設置が進まないようです。勝山市としてのお考えはどうでしょうか。

いずれも重要要望事項として県に要望しているようですが、現在の状況と今後の整備の見通し、その他具体的な対策及び勝山市としての方針を伺いたいと思います。

3番目に、教育、研究機関との連携について伺います。

本年度学生合宿は盛況であり、また、関西学院大学からはインターンシップを受け入れています。これに対応して、勝山市側からの市職員の留学を検討すべきではないでしょうか。もちろん特別地域枠として受け入れていただくことが条件となりますが、御一考いただきたいと思います。

また、一部の自治体では医学部以外での地域枠の設置の動きがあります。地域枠との観点から、現役高校生の受け入れ枠として勝山市推薦枠の設置は今後の課題と考えます。お考えを伺います。

また、研究機関の誘致については何度か伺っていますが、地域特性に合わせてセミナーハウスの招聘ができないか改めて伺いたいと思います。

次に、合宿支援の強化について伺います。

山岸市長の開会あいさつにもあったとおり、今年度は大変な盛況となっています。関係者の熱意に敬意を表したいと思います。

しかし、今年度第1次補正予算では福井県の補助金がついたため予算を組み替えましたが、総額は変更しませんでした。そして、今議会では590万円の補正予算を計上しています。これは余りにも見通しが甘かったのではないのでしょうか。7月には合宿生が来勝していることを考えると、その当時でもある程度見込みがつかめたはずです。状況を伺います。

また、学生合宿だけでなく、体験型修学旅行の導入ができない理由はなぜでしょうか。補助金なのか、提案できるメニューがないのか、それとも誘致は考えないのか、方針を伺いたいと思います。

最後に、文化・運動施設の整備について伺います。

まず、先日、市民会館大ホールを使用するイベントに立ち会う機会があり、その中でさまざまな問題を伺いました。

第1に、ステージが現在では既に狭いということです。この点については簡易ステージを拡大することですぐに対応していただきましたが、運用面では約1メートル程度の拡張が音響的にもよいようです。また、反響板も傷みや天井部分の機能不足が目立ってきており、改修が望まれるようです。

さらに、年々進化する音響映像システムに対応し切れていません。ロビーに置く大型モニターもないような状況です。

備品的にも足りないものがあるようです。大きな予算措置が必要な部分もありますし、すぐに対応できる部分もあると思いますが、当市では唯一の施設であり、今後も同様のホールを望むべくもありません。今後もその価値は大きいはずで、市民会館だけに限らずさまざまな施設で点検や改修を検討する必要があるかもしれません。

施設の有効な利用法も研究すべきです。さまざまな行事に対応できるように、備品の充実も必要ははずです。対応策を伺います。

また、さきの質問において体育施設の不足を取り上げましたが、勝山市にないものは芝生のグラウンドと全天候トラックです。

今月14日に行われる小学校の連合運動会では、新しい試みとして競技能力の向上の一環として公認審判員が審判を行います。しかし、開催されるのは西小学校のグラウンドであり、200メートルの土トラックです。県内ではほとんどの地区において全天候トラックで小学校の地区運動会が開催されているようです。土グラウンドと全天候トラックでは感覚が違い、突然走ると転倒やけがのおそれがあります。

伺うところによると、希望はあれどふれあい公園陸上競技場までの移動手段の確保ができないようです。市内に対応できる施設があれば別ですが、とりあえずの対策として移動手段の予算を計上すべきではないのでしょうか。さらにこれからの計画では、芝生のグラウンドや陸上関係施設の展開が見えてきません。今後の計画もしくは方針を伺いたいと思います。

以上、まずお伺いいたします。

○議長（清水清蔵君） 山岸市長。

（市長 山岸正裕君 質問席登壇）

○市長（山岸正裕君） 主催事業の計画と状況についてのうち、スローライフサミットと環境自治体会

議についてお答えをいたします。

まず、スローライフとは、イタリアのスローシティ運動に端を発した、人間らしい暮らしを求めて地域固有の自然や風土、伝統や歴史、特有の文化や地域住民のライフスタイルを尊重して、コミュニティーによって成り立っている地域の力を再発見することによって、魅力ある個性や特性、地域の誇りにつなげるというまちづくりの考え方であります。このスローライフの基本的理念は、勝山市の再生と未来への進化をめざして推進しているエコミュージアムの理念と非常にマッチしておりまして、今後、エコミュージアムによるまちづくりを進め、さらに魅力的で個性豊かなまちづくりを行うため、来年の秋以降にスローライフサミットを勝山市で開催したいと考えております。加盟16市の市長や議員、そして市民の皆様の参加のもと、各都市のスローライフについての事例発表やシンポジウムを実施する予定であります。

スローライフサミットの開催にかかる予算については、主催者であるスローライフ全国都市会議からの交付金と参加者負担金のほか、開催地である勝山市からの補助金が必要となりますので、今後、内容や事業費を精査し、市議会にお諮りしてまいります。

次に、環境自治体会議全国大会についてお答えします。

6月議会でも御報告しましたとおり、平成24年に勝山市において第20回環境自治体会議が開催されるのが正式に決定いたしました。環境自治体会議は自治体ばかりでなく広く環境に関心のある多数の市民、NPO団体、事業者、研究者、議員などが参加し、自治体や団体がそれぞれの取り組みを発表し、協議し、啓発し合うと同時に、全国の自治体に向けて提言発信を行います。

御質問の平成24年に開催される勝山大会でのアピールポイントは、エコミュージアムによるまちづくりを推進する勝山市がアメリカの経済誌「フォーブス」電子版において、世界で9番目にクリーンな町にランクづけされたことや、電車存続に取り組み、えちぜん鉄道として復活させた市民の意識と行動力も大きなアピール材料であります。

また、エコミュージアム活動にその源がある勝山をきれいにする運動やクリーンアップ九頭竜川など、市民の環境美化意識が自主的な活動としてその輪が広がっている事例、さらには史跡白山平泉寺旧境内や大清水など、自然景観や歴史的町並み景観とその保全活動についても、今後、環境政策の考え方に組み込むことによって勝山市独特の取り組みになると考えます。環境自治体会議では、これらをテーマとして全国にアピールしてまいります。

また、環境自治体会議の目的と期待する効果ということになりますと、環境自治体会議を当市で開催することにより多くの市民が環境に対する関心を持ち、他のすぐれた取り組みを知ることで環境意識をさらに高め、取り組みのレベルアップを図ることや、環境問題に積極的に取り組むことによって市民と行政が一体となってエコ環境都市を推進する機運が高まっていくと考えております。

そして、クリーンなまちづくりを進めている勝山市を全国にアピールすることもできますし、コンベンション効果、つまり3日間にわたって行われる会議や、実際に現場に足を運んで行われるケーススタディーに参加いただくことで会期中延べ3,000人の来訪者が見込まれ、勝山市の滞在型観光に大きく寄与するものと考えられます。

また、今後の予定につきましては、本年8月にエコ・クリーン市民会議を設立しましたので、環境自治体会議に向け本年度は同市民会議を準備委員会として位置づけ、大会テーマなどを検討し、来年度に同市民会議を主体とした実行委員会を設立し、大会に向けて準備を進めたいと考えております。

また、大会の予算計画は過去の大会の事例では総額で約 1,200 万円程度の事業費で、自治体の負担金は約 500 万円から 600 万円程度となっております。これらを参考にこれから設置する市の実行委員会や、環境自治体会議の事務局とも協議して検討してまいりたいと考えております。

また、白山平泉寺旧境内のガイダンス施設については、これまでも御説明してまいりましたとおり外構工事等も含めた施設の完成予定は平成 24 年の秋の見込みですので、環境自治体会議を開催する予定の 5 月頃までには間に合わない状況にあります。

なお、来年の全国環境自治体会議は新居浜市でありますので、議員の皆様方にもぜひ出席をしていただいて、つぶさに事前にその様子を見聞していただきたいと思っております。

○議長（清水清蔵君） 大林建設部長。

（建設部長 大林市一君 登壇）

○建設部長（大林市一君） 勝山への進入経路の整備についてお答えいたします。

市外から勝山市への主要アクセスは、国道 416 号、国道 157 号、そして新たに整備が進められています中部縦貫自動車道があります。

中部縦貫自動車道永平寺大野道路については、勝山大野間は平成 24 年度供用を目指して現在工事が進められており、福井大野間の全線供用開始については国に対し平成 28 年度となるよう、去る 9 月 2 日に福井県知事と沿線自治体首長により民主党幹事長及び国土交通省に対し提言活動を行ったところです。

一方、県道勝山インター線の整備については今年度より九頭竜川にかかる新しい橋の測量、調査、設計が始まっており、中部縦貫自動車道の平成 28 年度供用開始と合わせての開通を目指しています。また、一部用地買収が困難な箇所についても県側の鋭意努力によって進展するものと期待をしており、市としてはその推移を見守りたいと思っております。

次に、大野市方面の国道 157 につきましても、猪野口地係の女神川の橋梁の新設と大渡洞門までの 4 車線化を行い、平成 23 年度中の供用開始を目指しています。しかし、大渡高架橋、下荒井橋及びトンネル、赤根川橋梁の計画は、中部縦貫自動車道の供用開始後に判断したいと県側より聞いております。

一方、福井方面からの国道 416 号につきましても、現在、永平寺町光明寺、轟、野中で進められていますバイパスは、県事業により用地買収、改良工事が順次進められているところです。

このように主要幹線道路網の整備につきましても、高規格道路、国道、県道ともに各道路管理者のもと整備工事が進められており、勝山市として早期の事業完了を求め、今後も関係機関へ働きかけてまいります。

次に、国県道の整備予定についてお答えいたします。

7 月に行われました県への重要要望において、国県道の整備について強く要望を行ってまいりました。その結果、主要地方道の消雪工事、段差解消を目指した歩道整備工事、学校周辺の歩道新設工事、局部の道路改良工事など、来年度以降も継続して事業着手となることを確認しています。

御指摘のありました道路舗装の損傷状況について県側は道路パトロール等を定期的に行っており、路面状況についても把握していると思われませんが、市としても国県道の状況にも気を配り、不都合箇所の改善を県に要請してまいります。

次に、国県道の照明施設についてですが、道路の照明施設は街路灯と防犯灯に区分されます。街路灯は道路管理者により設置されるもので、交差点や橋梁、カーブ区間など、危険箇所に道路施設として設

置されます。防犯灯についてはこれまで通学路や集落間の道路を中心に整備を進めてきたところですが、必要な箇所については今後も道路管理者及び地元区長、関係地係の方々と協議をさせていただきます。

次に、道の駅の整備についてお答えいたします。

道の駅とは、道路利用者のための休憩機能、情報発信機能、地域との連携機能をあわせ持つものです。設置形態として道路管理者が設置する休憩施設と市町が設置する地域振興施設とをあわせた一体型施設と、市町のみでこれら施設を設置する地域単独型施設に大別されます。現在、福井県内には八つの道の駅が登録されており、そのほとんどが国道沿いに設置され、休憩施設と地域振興施設を道路管理者と市町とが分担し、施設全体の運営を行っております。

当市には年間140万人の方が恐竜博物館やスキージャム勝山、ゆめおーれ勝山などを中心に訪れています。したがって、この現状を直視すれば道の駅の必要性は十分検討に値するものだと判断し、その調査、研究を既に指示をしております。そのような中で実施に向けて多くの課題があり、現状の把握と課題整理を行う必要があります。

特に主要幹線道路の整備がなされた場合、将来交通量を見据えた立地場所の選定が重要であり、その場所が国道沿いであれば道路管理者である国や県との協議が生じてまいります。また、市が担当する地域振興施設建設のための財源確保、運営体制はだれがどのように行うかなど解決しなければならない課題が多くあります。

したがって、今後、道の駅の整備については庁内関係課が集まり、現状と課題を整理し、勝山市の道の駅の将来像について都市計画マスタープランに位置付けるとともに実施に向けて調査研究を進めてまいります。

○議長（清水清蔵君） 水上未来創造課長。

（未来創造課長 水上実喜夫君 登壇）

○未来創造課長（水上実喜夫君） 次に、大学・研究機関との連携についての御質問のうち、大学との職員・学生の交流、連携の推進についてお答えします。

関西学院大学とは昨年6月30日に締結した包括的相互協力協定に基づき、互いの人的、知的資源の交流、地域資源の活用を図り、双方の活動の充実、発展に向け、本年度から始まったインターンシップ生の受け入れや、総合行政審議会への同大、大学院教授の参画など、勝山市におけるフィールドワークの提供、大学の知的財産の活用を図っているところであります。

御質問の市職員の大学への留学についてでございますが、特定職員の長期間の派遣は少数精鋭で業務で行っております当市にとりましても、また派遣される職員個人にとりましてもかなりの負担を伴うことが考えられます。現在、勝山市では職員の資質向上や政策的な課題に対応させるための手段として、職員を短期間研修機関へ派遣したり、大学の教授または民間の専門講師を市役所へお招きし講義をお願いするなどの方法で対応しております。

現時点においてはこのような方法が効率的であると考えており、今後、関西学院大学との交流を進める中で大学の知的資源の活用という観点から、勝山市における関西学院大学教授陣による集中セミナー等の開催の可能性について研究してまいりたいと考えております。

また、受験に当たっての関西学院大学への勝山市推薦枠の設置につきましては、今後、大学側との双方向の連携を深め、実績を積み重ねる中で機会をとらえて勝山市推薦枠、あるいは地元勝山高校の指定校推薦枠の設置について提案してまいりたいと考えております。

次に、地域特性に合うセミナーハウスの誘致についてお答えいたします。

関西学院大学のゼミまたは文化・スポーツクラブ等の合宿などに利用できるセミナーハウスの誘致につきましては、市内の遊休施設等の活用を図る中で、大学の知的資源をまちづくりに生かしていくことを視野に入れながら、まず大学側の状況やそのニーズをよくお聞きし、その上で勝山市の地域特性である豊かな自然環境や歴史、文化などを踏まえ、市内の遊休施設等に関する情報を積極的に提供してまいりたいと考えています。

○議長（清水清蔵君） 小林観光政策課長。

（観光政策課長 小林喜幸君 登壇）

○観光政策課長（小林喜幸君） 大学・研究機関との連携のうち、学生合宿につきましてお答えします。

勝山市学生合宿誘致事業は、学生合宿を誘致することで市内の宿泊者の増加を促進し、地域の活性化を図るとともに、勝山市の魅力を感じていただき、将来の観光リピーターの確保につなげていくことを目的に、本年4月から実施している事業であります。

市内で2泊以上連泊する県外の10名以上の高校生や大学生等の団体に、1人1泊1,000円を補助する事業であります。なお、この事業は県の補助事業にもなり、1,000円の2分の1、500円が県から補助金として交付されます。

今回の事業実施につきましては、勝山ニューホテル指定管理者から、学生合宿誘致拡大のための施策として市に提案があったもので、市では費用や効果等を検討し、予算措置を行ったものです。このことは指定管理者制度導入によって民間活力が生かされた事業であると考えています。

市では事業の実施に向け、本年3月末に勝山市旅館業組合等へ制度の説明を行いました。その中で勝山ニューホテルは積極的に取り組みを展開し、大学生協京都事業連合が発行する合宿・ゼミ旅行を紹介した冊子への掲載や独自チラシの作成、そして合宿誘致専門の担当者を配置しての熱心な営業活動を進めてきました。

その結果、5月以降予約が殺到し、大学等が夏休み期間に入る8月、9月の予約状況が加速してきたので、その状況を受けて事業費の増額補正を今9月議会に計上するとともに、県の補助金につきましても増額を申請しているところであります。

8月31日現在の学生合宿予約状況は、20の大学の42部とゼミと7高校で、宿泊延べ人数は5,523人です。また、新たに体験型修学旅行をこの補助メニューに加えられないかについては、本制度には組み入れられないものの、こういった体験型メニューが提供できるか、市独自の補助制度創設も視野に入れて研究を進めていきたいと考えております。

○議長（清水清蔵君） 荏安生涯学習・スポーツ課長。

（生涯学習・スポーツ課長 荏安和幸君 登壇）

○生涯学習・スポーツ課長（荏安和幸君）

文化・運動施設の整備について、お答えいたします。

市民会館の現状の舞台の間口は約8間、約15メートル、奥行は約4間、約7メートルとなっており、特に奥行が間口に比較して短く、吹奏楽、管弦楽、演劇等の催し物時にはかなり窮屈な舞台設定となる場合があります。

舞台の奥行きを広げるには、舞台後方または前方を広げる方法がありますが、舞台後方を広げるには舞台の大改修を伴い、敷地の関係もあり困難であります。また、舞台前方を広げると客席数が減少し、

舞台照明等の不都合も生じてきます。

したがって、催し物の内容、規模に合わせ主催者と協議しながら、仮設のせり出し舞台を活用し、舞台の奥行を広げる方法で対応してまいりたいと考えております。

次に、市民会館は昭和42年7月に竣工し、43年を経過しております。その間、平成4年に大ホールの改修を実施し、反響板の新設、舞台照明、音響設備などの舞台関係設備の更新を実施し、多くの催し物に利用されてきました。

しかしながら、その改修後18年が経過し、反響板も含め設備の利用に伴う傷みが一部生じております。今後、徐々に改修が必要となってきますが、現状の設備を大事に使用しながら計画的に改修等を実施し、利用者がよりよい催し物ができるようにしてまいりたいと考えております。

次に、舞台用の備品については、反響板、フルコンサートピアノ、平台、金びょうぶ等を備え付け、催し物に利用されてきました。しかしながら、備品がない場合、またはあっても不足している場合には、催し物の主催者に手配をしていただいております。

例えばコンサート演奏者用の譜面台、譜面灯などがあります。すべての催し物に使用する備品を備えることは困難ではありますが、舞台設営がスムーズに進行するよう、舞台関係設備の改修等とあわせて計画的に備品の充実に努めてまいりたいと考えております。また、教育会館においても施設の点検等は必要であると考えます。

次に、小・中学校のために暫定的に奥越ふれあい公園競技場への交通手段の確保についてですが、小学校の連合運動会は従来、成器南小学校と成器西小学校で隔年開催してきており、成器南小学校が駐車場等の関係によりここ数年は成器西小学校グラウンドで開催しております。

連合運動会は、市内の9小学校から児童が集まって実施されており、また児童の御家族も応援に多くの方が来られ、我が子、孫たちに精いっぱい応援をされておられます。過去に連合運動会を大野市にある奥越ふれあい公園競技場で開催してはどうかとの検討がなされた経緯がありますが、児童の御家族の方が応援に行く場合、市内の会場のほうがよいという意見が多く、会場変更までには至りませんでした。

今後、新たに連合運動会の開催会場をどうするかという検討がなされた上で、奥越ふれあい公園競技場で開催するという事になれば、その交通手段の確保について対応してまいりたいと考えております。

中学校においては陸上競技大会及び部活動において奥越ふれあい公園競技場へ行く場合には補助をいたしております。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） 環境自治体会議につきましては、前回お伺いしたことをもう一度お答えいただくような形になりまして、申しわけございませんでした。その中で来場者、来場者といいますが、勝山に来られる方が1,000名から3,000名に予定がふえたということで、その分落ちるお金も大きくなるのかなということで非常に楽しみにしております。

それでは次に、勝山インターチェンジのアクセス道について若干追加で伺いたいと思います。

御回答の中にもありましたとおり、九頭竜川を荒土地区に渡る仮称勝山大橋ですか、建設工事が着工されるという報道がありました。この部分はいいんですけれども、その橋ができるとなると、その先の堤防道路の交通量がふえるということが予想されるわけです。前にいただいた資料で社会資本整備総合

交付金の事業計画がありまして、その中で平成25年度に千代田堤防道路の歩道整備530メートルが計画されています。そうするとその先はどうなるのかなど。発坂までの区間の歩道というのはどのように整備されるのだろうか。交通量がふえるのに対応し切れるのだろうかという不安があります。その点についてまず御回答いただきたいと思います。

○議長（清水清蔵君） 大林建設部長。

（建設部長 大林市一君 登壇）

○建設部長（大林市一君） まず、県道勝山インター線につきましては、先ほどお答えしましたように、全体計画、勝山インターチェンジから荒土町の松ヶ崎までを全体計画を立てております。したがって、順次、事業化がされて整備が進められているところです。

一方、藤巻下荒井線、堤防沿いの道路の歩道計画につきましては、先般の7月の県への重要要望事項の中でも歩道整備計画についてはお願いをしてきたところでございます。したがって、今後も市としては歩道の整備計画につきましても県側へ要望していきたいと思っております。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） この問題につきましては、伺ったとおり今後の推移を見守りたいと思います。

それでは、改めて道路の管理整備ということで舗装の件なんですけれども、県に要望して順次やっていくということなんですけれども、国県道の改良舗装事業負担金は今年度約5,500万計上されています。工事予定地は御報告にありましたとおり、下荒井の国道157号線の4車線化の部分となります。ただ、この負担金ですけれども、平成21年度決算額は4,500万円、当初予算額は6,000万だったんですよね、平成21年度の。3月補正で1,500万円の減額をしたと。これだけ舗装をしてほしいとか整備をしてほしいという要望がいっぱいある中で、1,500万の減額をそのまましてしまわずに、ほかにはもちろんいったわけなんですけれども、道路予算ではなくなってしまうという経緯があります。

また、今回9月補正で県は12億円の道路整備事業をまた盛り込んだわけですよね。そうなるのと、何とかその予算を市道の舗装なり勝山の中で有効に活用できないものかと、素人ながらに考えてしまうんですけれども、その点に何か手段はないものかお答えいただきたいと思います。

○議長（清水清蔵君） 大林建設部長。

（建設部長 大林市一君 登壇）

○建設部長（大林市一君） 御質問のございました国県道の改良負担金についてですけれども、県サイドも国からの交付決定等がございまして、事業費等、相当変更がございまして。最終的にもっと早く変更の報告がなされればいいんですけれども、どうしても県のほうも事業の確定が年度末ぎりぎりになってまいります。そういったことから変更がなかなか厳しい状況にございます。

一方、そういった余った費用を修繕費に回せないかということでございますけれども、我々としても修繕に必要な箇所については当初あるいはそれぞれの補正によって計上してまいりますので、必要な修繕については別途予算をまた計上したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） わかりました。

県相手の問題ですので、困難な面はありますが、市として状況の改善を進めていただきたいと思いま



す。

照明の問題につきましては、市街地においても国県道で夜、女性が1人ではとても歩けないと。まして今、学生合宿で来られている方がニューホテルからどちらかに向けて歩くと真っ暗やみだという状況があります。ぜひとも何とか改善に努めていただきたいと思います。

さて、その学生合宿でございますが、私もその合宿ガイドって見ました。ここには持っておりませんが、家にいただいてきました。厚さ5ミリほどの何十ページにもわたるパンフレットですね。見開き2ページで左側がニューホテル、右側には大野のフレアールとか、そのあたりなので、これはメンテナンスナカムラさんが営業されたんだと一目でわかる状況です。

その雑誌の中の補助金メニューを見ますと、各地の誘致内容はほとんど補助金額的には同様です。ただ、富山市みたいに限度額が200万円という突出しているところもあるようですけれども、勝山市が決して大幅に補助金がいいというわけではありません。また、設備的には実際陸上競技とかそういうのはございませんし、市外へ行くということで非常に劣っているわけです。早急な、施設が不足している面に対しての充実ということに対しての対応策がどのようにあるのかお答えをいただきたいと思います。

○議長（清水清蔵君） 小林観光政策課長。

（観光政策課長 小林喜幸君 登壇）

○観光政策課長（小林喜幸君） ただいまの宿泊所というよりも運動施設が足りない面をどのように考えているかということにつきまして、お答えをさせていただきますと思います。

勝山市内には長山グラウンド、弁天緑地等々あります。また、アボットジャパンのグラウンドも利用をしているような状況でございます。それでも足りないというような場合には、夏休み期間中に限るといってございまして、小学校の体育館等も利用できるというようなことで関係課との打ち合わせも終えているところでございます。限られた体育施設でございますけれども、有効に利用していただけるように配慮をしているような状況でございます。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） その中で屋内施設はそこそこあると思うんですね。屋外施設、特に弁天グラウンド、私もことし何回か見たんですけれども、河川敷にグラウンドがあつてテントが二張りぽんぽんと置いてあると。風が吹いて日当たりが強いとあそこで休んでいるのは酷かなと思うわけです。もう少し何か対策は考えられなかったのかなと。日よけの鉢植えといいますか、観葉植物でも置いてテントの日を遮るとか何かそういう手段も考えていただきたかったなと思います。

弁天グラウンドは河川敷であるゆえに維持管理が難しいんですけれども、そうなってくるとグリーンヒル上野の緑の広場、先日、私こそと行って見てきました。広さ的にはサッカーグラウンドぐらいはとれるんじゃないかなと、整備すれば。そのあたりをもう少し整備して使うことは考えられないのかなと思います。お考えを伺いたいと思います。

○議長（清水清蔵君） 小林観光政策課長。

（観光政策課長 小林喜幸君 登壇）

○観光政策課長（小林喜幸君） 学生合宿の運動施設としてグリーンヒル上野の芝生広場の活用ができないかとの再質問につきましてお答えをいたします。

グリーンヒル上野の緑の広場は体育施設として整備された広場ではなく、過去に廃棄物の埋立地であ

ったため、その跡地利用として地元と協議し、設置しました公園であります。また、維持管理を地元区にお願ひし、非常によく管理された芝生広場であります。しかし、この緑の広場の芝生広場内には遊具等も設置してあり、いつでもだれでもが利用できるようになっています。また、多人数の部活動の使用には多少狭いかなというふうに思われます。このためどのような活用ができるか、地元とも協議しながら検討をしてみたいです。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） なかなか厳しいようですけれども、グリーンヒル上野、いつ行っても人がいないと。一番大きい広場には遊具ないんですよね、実は。一段上の部分にあるんですけれども、下の部分にはないですよ。木はありますけれど、1度よく利用方法を検討していただきたいと思います。若干手直しは要るかなとは思いますが、むやみにほうっておいて、あれだけ手入れしてあるのにもっと有効的な利用価値はあるかなと思います。

それでは、今の緑のといいますか、芝のグラウンドがないということで。同じくして400メートルのトラックが全然勝山にはないと。トラックというよりも全天候のトラックがないんですよ。総合計画の総合体育館の建設工事に合わせても陸上競技場の先行き、競技場でなくてもいいんですけれども、陸上トラック、先行きが見えないと。県営競技場のサブトラック、300メートルトラックですけれども、4レーン程度のウレタンコースがあれば、とりあえず冬季でも練習はできるし、予算的にもそんな大きなもんじゃないかなと考えます。合宿が来てもとりあえずそこで合宿程度ならこなせるということになりますので、陸上競技場じゃなくてトラックの整備という点についてどのようなお考えをお持ちなのか伺いたしたいと思います。

○議長（清水清蔵君） 苺安生涯学習・スポーツ課長。

（生涯学習・スポーツ課長 苺安和幸君 登壇）

○生涯学習・スポーツ課長（苺安和幸君）

再質問についてお答えいたします。

全天候のトラックの確保についてでございますが、まずそのニーズ等を調査する必要があると考えます。その上で全天候トラックについては小・中学校のグラウンドの中にモデルケースとして100メートルのコースを設定できないものかということで、今後研究してみたいと考えております。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） そうですね、小学校とか中学校のグラウンドに2コースでも3コースでも100メートル引いてもらえばいいんですけれども、何かないかなということで私もいろいろ調べてみました。最近ウレタンのロールがあるんですよ、厚さ16ミリぐらいで、幅1メートル20センチの巻きロールがあって、それをばあっと敷くこともできると。ちょっと単価的には高くなるのかなとは思いますが、必要などこにその気になれば運べるというものがあります。1度御検討いただきたいです。

最後に、最近ほかの市町村で簡易ステージを見かけたんです。高さが90センチぐらい、1個が1メートル20センチぐらいの角。上板が乗って下は別でばらして運べると。これを三つ、四つ、五つ、六つと連結して簡易的なステージをあちこちで構成できると。勝山市でもそういういろんなイベン

トでステージが使われるようになってきたんで、そういう簡易ステージを保有してないのか、どこにもないのかなと、貸してくれないのかなという気がするんです。その見てきたところでは無償でそういうイベントに貸し出していると。そんな高いもんじゃない、1個1万5,000円か、高いことは高いですけども、2万円ぐらいなものなんで、市としてこの盛んになってきたイベントを支えるためにも保有する気がないかどうかお伺いしたいと思います。

○議長（清水清蔵君） 苺安生涯学習・スポーツ課長。

時間ですので、簡潔にひとつお願いいたします。

（生涯学習・スポーツ課長 苺安和幸君 登壇）

○生涯学習・スポーツ課長（苺安和幸君）

再質問についてお答えいたします。

簡易ステージにつきましては、屋外または屋内でステージのないところに仮設のステージを設置するために簡単に移動、組み立てられるもので、特にイベント時に有効に活用できるものと考えます。しかしながら、どのような催し物に使用するか、ステージの大きさ、高さはどうか、屋外または屋内で使用するのか、保存場所、貸し出し方法、価格等を調査研究する必要があると考えます。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） 最後に、道の駅の設置につきまして、もう一度伺いたいと思います。

いろんな部署と連携して今から検討するということでしたけれども、規模とかそういうのは検討に値するにしても、主な目的をどちらに振るつもりなのか。もちろん観光客が目当てなんですけれども、商業施設とするのか、休憩施設とするのか。それともある程度景観のいい位置に置いて、それも保有するのか、それともマルチ的なものにするのか。そのあたりのお考えがあれば1度お伺いしたいと思います。

○議長（清水清蔵君） 大林建設部長。

（建設部長 大林市一君 登壇）

○建設部長（大林市一君） 道の駅についてお答えいたします。

先ほど申しあげましたように、道路利用者に対する休憩施設、それから地域振興施設、この二つの要素を持ち合わせたものを道の駅と申しあげております。したがって、特に我々、市が担当します地域振興施設につきましては、先ほど申しあげましたように、今後の調査研究をさせていただきたいということでございます。

○議長（清水清蔵君） 2番。

（2番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○2番（帰山寿憲君） 以上で終わります。